

病院力を、地域力に。

いつも私が大切にしている言葉の中に「出会いは学びであり、生きること」という言葉があります。この言葉は私の実体験の中から生まれたものです。

私は看護師として30年間、水戸協同病院に勤務していました。医療従事者の宿命であるとはいえ、ターミナルの患者とか、家族との出会いを通じて、命の尊さと儚さを学びました。また、医師やコメディカルスタッフとの出会いが私を成長させてくれました。さらに、病院の外での地域住民の方々との出会いは、病院の中しか知らない私の視野を大きく広げてくれました。新たな出会いがチャンスを生むこと、だから出会いを恐れてはならないこと、他人に対して臆病になってはならないこと、人は人の中で最もよく生きられることを学んだんですね。

人間関係が希薄になっている、地域の連帯が弱まって、「世知辛い世の中」と呼ばれる昨今、他人を信じられなくなったとか、自信を失くしてしまった人たちが増えています。ス



トレスを抱えきれなくなって、うつや引きこもり、薬物中毒などの心の病にかかる人たちもそうです。

今のような時代だからこそ、心の絆、連帯感や一体感を大事にすることが必要で、人間関係上の問題解決を個人の自己責任の問題で済ませておくべきではない、みんな

で共有すべきだと思えるのは私だけでしょうか。脳響スイーツのコンセプト、NOKYOKO ストリートの構想はこうした問題意識から出発しました。

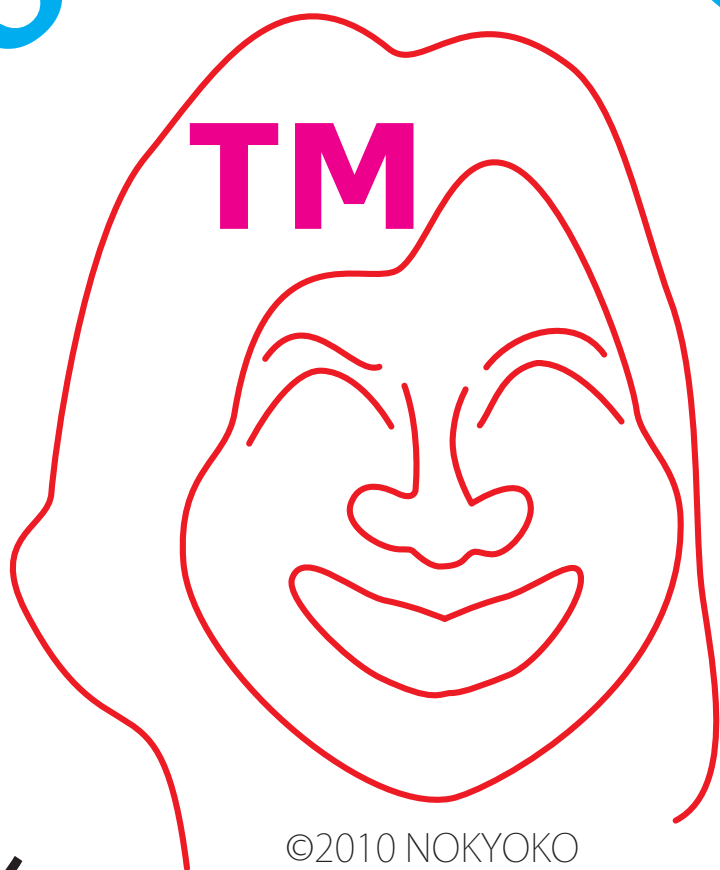
とくに地方では経済が疲弊し、商工業者組織や町内会など従来の地域コミュニティの担い手が機能不全に陥り、自治体にも期待できない手詰まり感のある状況下で、私たち医療従事者は病院に経営感覚を取り入れるだけでなく、もっと広く社会、経済に関心を持ち、積極的に牽引役を引き受けていくべきなのではないかと考えました。

だから、NOKYOKO ストリートは日本で初めての医療者、看護師による地域おこしプロジェクトです。たった一つの里芋が、農家のみなさん、食品加工業者、飲食店のみなさんなどたくさんの方々の心をとらえ、一つにし、NOKYOKO ストリートを誕生させることができたのは、みなさんの、私と同じ強い思いによるものであって、偶然や奇跡が起きたのではないと思います。

FM ぱるるん (2010年9月14日放送) より

のうきょうこ タウンミーティング

NOKYOKO Town Meeting



* 病院力を、地域に *